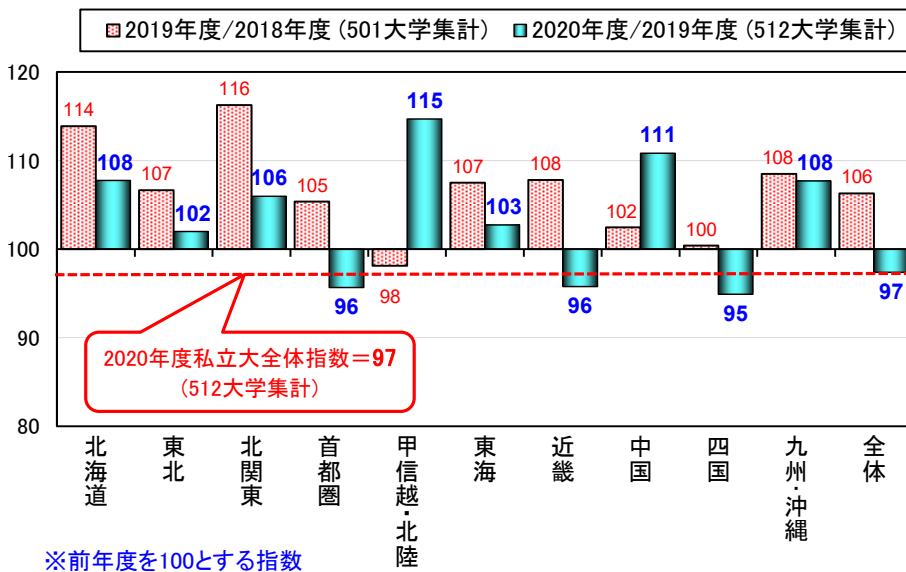


2020 年度入試状況分析【私立大】

◎地区別志願状況

□志願者数は首都圏、近畿の減少が全体の減少に直結

〔私立大一般選抜入試 地区別志願状況〕



大学の所在地別志願者数は、地方部の甲信越・北陸(115)、中国(111)、北海道(108)、九州・沖縄(108)、北関東(106)と地方での「地元志向」による増加が強く表れました。なお、北海道は、前年度は私立大として募集を行った千歳科学技術大を前年度の集計から除くと、(115)の大幅増加でした。

一方で、募集人員の多い大規模な総合大学が多い都市部の首都圏(96)、近畿(96)は減少しました。いずれも減少率が全体の減少率より

りわずかですが大きく、この2地区の減少が全体の減少に直結しました。

全体の志願者数の約57%を占める首都圏では、埼玉(106)、千葉(113)、神奈川(111)は増加しましたが、首都圏全体の志願者数の80%以上を占める東京(93)は減少しました。このように東京の大学を敬遠して、周辺の大学に出願した受験生が多くなったのは、弱気な出願動向から首都圏でも「地元志向」が強まったことが要因といえます。また、近畿は大阪(94)、兵庫(91)の減少が地区全体の減少に直結しました。

地区ごとに文理別で集計すると、理系(103)は北海道(98)、四国(97)の2地区のみ減少しましたが、北海道は、先に触れたように千歳科学技術大を前年度の集計から除くと、(113)の増加でした。四国はやや減少でしたが、徳島文理大・理工(141)は理・工系人気の上昇で大幅増加しました。また、中国の理系(121)の大幅増加は、岡山理科大(146)の大幅増加が影響しました。理系は首都圏(101)が微増、近畿(103)はやや増加したことから、理・工系の人気上昇が全国的なものであることがわかります。

〔私立大一般選抜入試 地区別・文理別志願状況〕

